

2015年1月6日

策定委員会の皆様

委員 井原 高地

日頃よりお世話になっております。

ここまで6回の策定委員会を重ねてきましたが、調整計画を策定するにあたっての市民参加のあり方と意見の取り入れ方について、また、そのための一手段として策定経過（方法と公開の仕方）に私自身消化しきれていないことがあります。

言葉だけではなかなか上手く伝えることが出来ませんので、メモ書き程度の雑駁な内容で申し訳ありませんが文書にいたしました。

私は10人からなる市民会議から選出された公募市民であり、有識者として策定委員会に入っていません。興味のある分野、施策はありますがそれは私の生活範囲・実体験に基づくものでしかありません。

これは、第1回より申し上げていることであり、より広く多くの市民の意見を聞くことの重要性と課題は市民会議でも上がっていました。

長期計画や個別計画は勿論、この調整計画も14万市民一人ひとりの生活に影響します。ですから、計画や施策に市民一人ひとりが関心と関わりを持っていただきたいし、そのためにも今回の策定そのものに関心と関わりを持っていただきたいと思います。

つまり、この計画によってご自身の生活がどう変わるのか？関心を持っていただき、どのように変えたいのか？ご意見をいただきたいと思っています。

それを考えた時、これまでの策定経過（方法と公開の仕方）や現段階の討議要綱（案）に、より工夫が必要ではないでしょうか。

すでに走り始めている策定ですが、感じたこと・思いついたことを列挙いたします。

◆ 第5期長期計画・調整計画の主旨は？

① 5長にある施策などの調整を行う。

- 推進するもの（スピードをあげるもの、現状のスピードを維持するもの）
- 方針はそのままでも方法を見直すもの
- 方針そのものを見直すもの

これらの分類が必要。しかし行っているか？

② 5長にはないが、社会情勢の変化により新規に行うものの検討。

行政からは一定の説明があったが、市民が考えているものは聞けていない。

◆ 討議要綱について

- ① 5長との繋がりが分かりにくい。
 - 5長に記載のある施策などを行った結果、市民生活にどんな変化があったのか。その変化をもとに調整計画では何を行うべきなのか？という記載が足りないのではないか。
 - 文章は理由説明に徹し、施策と事業一覧表メインで良いのではないか。

- ② 行政の意向などは取り入れられているが、市民意見の取り入れ方が不十分。
 - ワークショップや市民会議で出た意見はどの程度「検討課題」として盛り込まれているのか？
 - 討議要綱をもとに市民意見を取り入れるのかもしれないが、討議要綱は検討課題の網羅なのではないのか？
行政の展望や検討課題は見えるが、同時に市民の考えた検討課題などが記載されているべきではないのか？

私自身の力不足で市民の皆さんに申し訳ないのですが、ここまでの策定委員会は行政の掲げた展望や検討課題をなぞっている時間が多いと思います。

◆ 意見を聞く順序について

- ① 策定委員会は本格的な議論の前に市民と市議会、教育委員会の意見を徹底的に聞く方法が良いのではないか？
 - まず市民ヒアリングを行い、各担当部課長と市民が意見交換し、それを策定委員会が傍聴し、参考とする方法はどうか？
 - 市議会、教育委員会も同様の方法はどうか？

施策の推進の主体は行政の皆さんであり、なかなか市民が主体となれない以上、担当部課から現状報告や今後の展望を伺うことは非常に重要であり貴重な時間だと思います。

だからこそ、現場の職員の方々のご意見を伺いたいと要望し実現していただきました。

しかし、施策の受け手である市民の皆さんからも同時期にご意見を伺うべきなのではないかと思いました。今後、一層市民主体を掲げ、受け手から提供側に市民に入ってもらい施策の推進に市民の力が必要と謳うのであれば、市民から意見を聞く時間とタイミングを大事にする必要があると思います。

討議要綱には「市民が行政に投げかける検討課題」「市民が市民に投げかける検討課題」があるべきではないでしょうか。

以上